

ふるさと 再発見

広川町郷土史研究会

久留米藩最初の種痘医・熊谷文淑

～ 出身地は藩磨国だった～

熊谷文淑が吉常村に 医師として開業

熊谷文淑は名を三英、号を文叔と称します。文政2年(1818年)に、現在の姫路市で生まれました。妻のカ子も、同じく現在の姫路市生まれです。

はっきりした時期は分かりませんが、文叔は長崎で医術を学んだ後、久留米藩内の上妻郡吉常村(現広川町吉常)へ移り住み、医師として開業します。なぜ吉常村へ来たのかは、全く分かっていません。文叔には文政、直内という2人の男子がいましたが、文政は10歳で亡くなったため、直内が文英と号して医業を継ぎます。

その長男である巖(明治16年生まれ)は、医師として日露戦役に従軍し、旅順の203高地攻防戦でケガを負ってしまいます。長女のタケヲ(明治23年生まれ)は助産師として、昭和30年ごろまで活動したと聞きますので、ご存知の人も多いのではないのでしょうか。ちなみに文叔は、明治2年(1869年)2月1日に、51歳で亡くなっています。

文叔こそが 久留米藩最初の種痘医

弘化2年(1847年)12月、長崎出島の商館医モーンニツケは、オランダ東インド会社の本拠地インドネシアのバタビアから、最初の痘苗(牛痘・天然痘のワクチン)を運ばせました。当時は種痘(天然痘の予防接種で、痘苗を人体に接種する)の方法や痘苗を入手するため、諸国の医師がこぞって駆けつけました。

最初の痘苗は時間がたつていたこともあり、効果はあまり上がらなかったようです。嘉永2年(1849年)、2度目の痘苗が届いたときも、多くの医師が長崎に集まりまゝす。それらの医師の中に、間違いなく文叔の姿があったはずで、

文叔は以前から長崎出島に人脈があったため、モーンニツケ直伝で、種痘術や痘苗を手に入れた可能性が極めて高いと考えられます。当時は痘苗の長期保存が難しかったことから、文叔も吉常村へ駆け戻り、すぐに種痘を施したでしょう。

文叔を 最初の種痘医とする理由

嘉永6年(1853年)、山内村(現八女市山内)に住む本庄三郎が「引痘根原説」を記しています。「齋し来たりてより七年一連綿と種え続けて凡そ千児に及べり」などあることから、文叔が最初の種痘医であると考えられます。厳密な時や場所は特定できないものの、弘化2年(1847年)の可能性もゼロではありません。

かつては吉常村の墓所の一角に、文叔の来歴を刻む碑があったと聞きますが、現在まで確認できていません。情報をお持ちの人は、教育委員会事務局生涯学習係(☎0943・32・0093)へご連絡ください。

茨城県に続く、熊谷文叔直系のご子孫から、種々の情報を提供いただきました。紙面を借りてお礼申し上げます。



文叔の孫、巖の写真。文叔・文英の面影をよく残していたと聞く。

広川町古墳資料館だより

広川町古墳資料館では、3月21(日)まで企画展「疫病とのたたかい」を開催しています。

海外から侵入する恐ろしい疫病に、敢然と立ち向かった広川町にゆかりがある医師、石橋猷庵と熊谷文叔。今回の展示ではこの2人の功績を再認識するとともに、主に黒

船来航以降の日本人と疫病のたたかいについて、パネルや実物資料でその歴史をたどることができます。

来館した人には、展示解説資料をお渡ししています。1日も早い新型コロナウイルスの終息を願う企画展。ぜひ、資料を手に館内の展示をご覧ください。



総合クラブひろかわ

「広川春風ウォーキング」参加者募集

春風を感じながら、広川の歴史の足跡をめぐりましょう！ 春休み中の子どもたちと一緒に、ぜひ家族でご参加ください。



■日時 3月27日(出)、8:30 集合

■持参物 保険代 100円、飲料水

■申込期限 3月18日(休)

コース

8:30 広川町古墳公園資料館東側駐車場 [集合]

↓ 太閤道 ○○○

↓ 国分寺公園

豊臣秀吉が通った
といわれる

↓ 藤田運動公園

↓ 下広川小学校木造体育館 [休憩]

↓ 弘化谷古墳、石人山古墳

昼ごろ 古墳公園資料館 [帰着]

※雨天中止。歩きやすい服や靴でお越しください。

☎ 総合クラブひろかわ事務局 (教育委員会事務局生涯学習係内) ☎ 0943-32-0093

広川文芸

ひろかわ俳句会



丹精の目鼻くずれる雪だるま
腰折れど凛々と咲く野水仙
宮詣雪に靴跡ふかぶかと
あやされてふたつぶの齒の初笑
初夢に父母と語りて子に戻る
初雪に庭かけ回る孫二人
境内の対の狛犬初詣
静けさや庭に残れる雪景色
初農や動きわがまま耕運機
初売りの賑はひ遠し道の駅
冬蝶のじつと張りつく土塀あり
定位置の初カレンダー予定なく
うすらひに小さき魚影の赤と黒
百薬と信じ重ぬる年酒かな

櫻の会

寒の入り収束みせぬコロナ菌めげぬ心を日の出に誓ふ
四歳と一歳の孫は手をつなぎ小径の端の土筆を引きぬ
寒中のひとひの春に騙されしいぬふぐり花の青の淡さよ
グーグルに写る在りし日のコタロウは外を見据えて凜としてをり
茶の湯絵を張りし手紙の届きたり抹茶を立てて至福のひとつとき
意に添はぬ長き月日のカーペット取り替へ座する朝はすがしき
山茶花の蜜吸ひにくるひよどりを窓ごしに見ておはようと言ふ
断捨離のひとつ使はぬカード類抑揚のなきナビで解約
喜びと哀しみ扇のうら表はらり回してひと色の風

野中 勝美
一瀬 砂智子
中倉 明美
濱武 美智子
細川 徳子
山崎 美代子
中嶋 玉子
池田 和代
青木 佳代子

結束 節子
野中 勝美
美座 時朗
柴田 眞理
渡辺 弘子
福田 美知子
酒井 司
水本 辰次
原口 正信
青木 佳代子
山崎 陽子
一瀬 砂智子
原口 あつ美
水本 艶子